

さぬき市高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画策定委員会
第2回会議要旨

- 1 日 時 平成29年10月18日（水） 14：00～16：00
- 2 場 所 さぬき市役所長尾支所2階会議室
- 3 出席者 [委員] 20人
[事務局] 5人
[傍聴] 1人
- 4 議 題 第6期計画の現状評価と今後の方向性について
- 5 資 料 資料1 介護保険事業の状況
資料2 第6期計画の現状評価

6 会議の内容は次のとおりである。

(1) 会議の成立

さぬき市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会設置要綱第5条第2項の規定により、過半数以上の出席があり、会議が成立していることを報告した。

(2) 会長あいさつ

介護保険事業の状況ならびに第6期の事業の評価を基に第7期にどのような展開をしていくかということについてご議論いただきたい。

(3) 第6期計画の現状評価と今後の方向性について

事務局から資料1、資料2の説明をした。

資料1では、前回の会議での質問・指摘のあった事項を含め、人口、認定者数、1号被保険者1人あたりの給付月額の特徴、介護保険サービス利用状況、サービス受給状況、施設・居住系サービスの基盤整備状況について説明した。

資料2では、第6期計画で目標として掲げた1「はつらつと暮らす」身近なところから健康づくり、2「いきいきと暮らす」社会参加の推進、3「安心して暮らす」見守りと支援の仕組みづくり、4「住み慣れたところで暮らす」生活を支える環境づくり、5「安全に暮らす」生活を守る環境づくり、6地域包括ケアシステムの構築に向けての現状評価について説明した。

委員の意見等は次のとおり

○さぬき市の要介護認定率は全国平均、香川県平均と比べても高すぎるのではない
か。いろいろと要因はあると思うが、認定者が多ければそれだけ経費も嵩み、保険

料にも影響してくる。

○認定率について、香川県内8市の比較で、一番低い市とでは5%近く差がある。

○6期の計画策定時にも、認定率についてはもう少し考える余地があるのではないかという指摘があったと思うが、数字的には流れは変わらない。本当の介護保険とは何かということについて住民の理解を得ること、ただ近所の人が行っているから行くという話ではないことを十分して、何とかしないとイケない。

○介護の申請をする人で、何かあった時困るからとりあえず受けておくという話を聞いた。サービスが必要になった時で大丈夫だということを、窓口でアドバイスしてくれたら、無理に介護保険の審査会にかけて無駄な費用も無くてすむ。現にサービス未利用者がたくさんいる。

○歯周病予防要受診率について、かかりつけ医で定期健診を受けている方が数字に反映されていないので、返事をもらうようにしてはどうか。

○介護予防サポーターを毎年養成しているが、すぐに活動する方ばかりでない。市全体で取り組む活動もいいが、全員が活動してくれるようにするには、自分のごく近くで動くのが一番いい。自分の家でも構わないし、近所の1人暮らしの人に出てきてもらっておしゃべりするのでも構わないと思う。

○介護予防サポーターには、各種団体に所属している人もいる。助成金を出し、活動の一部として各団体で月1回健康教室を開くようにしてはどうか。教室を開くということも健康で長生きする中に入るのではないか。

○高齢者の多くは介護保険制度や介護予防について話を聞く機会が無かったので、地域に出向いて説明をしていただきたい。

○地域包括ケアシステムについて、関係者は詳しく解っているけど、結局市民が解っていないのかなと感じる。私たちは、会に出て説明書類を見たり、図をもらったり、協議したりするが、住民一人ひとりがケアシステムはこうかとはならない。市民を巻き込んで渦を作っていないと。こういうような委員会を通じて広く浸透していかないとイケない。一層PRしていただけたらありがたい。事業計画の中に落とし込めるかどうか、あるいはどういった仕組みを作っていけばいいか、ぜひ考えていただきたい。

○環境づくりの中で安心安全な生活について、核家族が増えているので、三世代同居している家族に奨励金を出してはどうか。一つ屋根の下で住むことに限らず、同じ自治会に住むとか、スープの冷めない所に住むとか、そういうのもありということ。

○免許証を返納した後の高齢者の方が移動手段に大変困っている。長生きするためには、人の中にも出て行かなくてはイケない。人の命を運ぶことはボランティアとしては難しい。運送法の関係もある。そこで、週1回くらい自治会ごとにタクシーのような小さいバスを回してほしい。

○コミュニティバスの接続が悪いところがあり、困っている人がいる。関係課等との連携が必要。

○3年ごとの計画策定で、変わらないものもあるが、地域の環境の変化等その変わるところをその期の計画に出さないといけないのではないか。例を挙げると、市の第二庁舎が市民病院の隣に建設される。行政の福祉部門が移ることで、医療との連携、病院との連携がスピードアップするのではないか。どういう風に連携し、より効果的なことをするのか考えていく必要がある。

○合併から15年になるが、合併当初人口がよく似た対等合併の先進地に兵庫県の篠山市があった。国、県、さぬき市の比較するグラフが多いが、15年経ってさぬき市とどこが違うのかデータを比べてみるのも何か意味があると思う。

○さぬき市内の施設とか特徴を生かす事業を考えてはどうか。例えば、高齢者の交通事故が多いと出ていたが、さぬき市には寒川自動車学校がある。ある自治会では子どもから高齢者まで含めて寒川自動車学校で交通自転車教室を行った。そういったさぬき市にある施設を有効に利用した事業をぜひ入れてほしい。そうしたら、住民参加、ふれあいができるのではないかと思う。